檜小だより

檜原学園檜原小学校

11月号

令和6年度

11月1日(金)

ホームページアドレス http://rlco.jp/hinoharasyougakkou/

支援と応援の「β mentality」

校長　下川　耕史

先日、「神山まるごと高専」の事務局長、松坂孝紀さんの講演を聞く機会がありました。高専とは、高等専門学校の略で、中学校を卒業した方が入学することができる、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関です。入学後は５年一貫で、技術者に必要な豊かな教養と体系的な専門知識を身に付けることができます。講師の方曰く、高校と大学のちょうど間にあるような学校とのことで、卒業生に対する産業界からの評価は非常に高いようです。高専が社会に接続することを重視した、大変実践的なカリキュラムを行っていることは聞き齧っていましたので、とても興味深く拝聴しました。

「神山まるごと高専」は、徳島県神山町という人口が5000人ほどの土地に昨年４月に開校したばかりの学校で、「モノをつくる力で、コトを起こす人」を育てようと、「テクノロジー× デザイン×起業家精神」を基本コンセプトに置いています。開校にたどり着くまで、いかに困難を乗り越えてきたのか。町と折衝を重ね、文部科学省の提示する厳しい基準に幾度となく心が折れかけたか。全寮制の環境下で繰り広げられる生徒同士の絆について。生徒一人あたりにかかる毎年の運営費用200万円は、協賛を取り付けた企業の出資金を運用することで得た利益を奨学金として交付することで、実質無料とすることができるまでに至った話。どれも大変聞き応えがあり、人に紹介したくなるものばかりでしたが、今回は子供と接するときに気を付けたいと思ったことをご紹介します。

この話題の学校は大変な人気で、志望者数は10倍を超えています。より質の高い教育を進めるために以下のような学生像を基準に、入試ではマッチングを進めているそうです。

①モノづくりに興味や関心がある人　②多様な情報を受け入れ、自分の意見を伝えられる人
③情報を適切に処理する思考力がある人　④正解のない問いに対して、独自の解を出せる人
⑤必要な学習を続ける意欲があり、学んだことを活かせる人

この学校は「モノづくり」や「起業」に大変強いので①が目を引きますが、②～⑤は先行きが見通せないこれからの世界を生き抜くため、文科省が掲げている令和の教育が目指しているものと似通っています。入学後の最初の授業では、「神山町を発展させるためにはどうしたらいいかをテーマとしたプログラミング体験授業」をするそうです。実際、プログラミングはさておき、考えさせていることは檜原中学校の生徒が総合的な学習の時間でやっていることと似ています。

さて、その２週間ほど後、まだまだ入学したてと言っていい生徒２人が先生に相談に来たそうです。「先日の授業は大変ためになった。もっと早くプログラミングに触れていれば、自分の人生はよりよく変わっていたように思う。だから、小中学生を対象にプログラミング体験セミナーをGW最終日（約２週間後）に開きたい」というような趣旨でした。詳しく聞いてみると、この時点の２人は準備に必要なことや対象者のイメージなど、ほぼノーアイディアだったそうです。こんな時、大人は実現の難しさを先回りして考え、つい「もっとじっくり時間をかけて考えよう」などと言ってしまいそうですが、この先生は出かかった言葉を飲み込んで、「支援」と「応援」に徹しようと決めたそうです。具体的な情報や状況を提示し、より深く理解を促しながら、話し合いを重ねました。例えば、対象は「小中学生」と考えていましたが、小学生の低学年はまだアルファベットも読めず、プログラミングを進めることは非常に困難です。生徒は悩みましたが、１人ずつメンターをつけて補助することを提案し、当初の想定通り、小学校１年生から中学校３年生まですべてを対象にしたいという考えを貫きました。「コトを起こすには理念が大事なんですよね」と、最初の授業で伝えた一言の大切さがしっかりと伝わっていたことが決め手になり、先生も腹を括ったそうです。結果、イベントは満員御礼、大成功となりました。

もちろん成功することばかりではありませんが、例え失敗はあっても、「理念を大事にして行動を起こす」ことで得られるものはたくさんあるでしょう。学校は学ぶ場であって、失敗をしてもいい場所なのですから。モノづくりの世界では、完成品を「α版」、未完成品を「β版」と呼ぶそうです。完璧なα版を目指して、子供に失敗をさせないようにと気を回すのが教育ではありません。「応援」の気持ちをもって必要な「支援」をしながら共に歩み、未完成の中の価値を拾っていく、「β mentality」の精神で子供たちに接していきたいと改めて考えさせられました。

１１月の生活目標

相手の気持ちを考えて
行動しよう！

人の心は目に見えるものではありません。しかし、優しい心で見てみると、相手の気持ちに気付くことができるかもしれません。自分がされて嫌なこと、言われて嫌なことは、相手にとっても嫌なものです。相手の良いところをたくさん見付け、お互いを認め合いながら、気持ちよく生活していきしょう。

生活指導担当

元気アップウィーク

10月15日（火）から10月20日（日）まで、２学期の元気アップウィークがありました。

10月10日（木）の元気アップ集会では、駅伝大会・マラソン大会に向けて体育館で５分間走を行いました。校庭には、駅伝用のコースもでき、放課後には、駅伝大会の練習も始まりました。11月の末には学園のマラソン大会もあり、元気アップ週間の後も、体力向上に向けての取組があります。継続して運動することで疲れにくい身体になったり、今までできなかった運動ができるようになったりと運動の楽しさを感じてもらえれば嬉しいです。ご家庭においても家族でジョギングをする等、取組へのご協力ありがとうございました。

元気アップウィーク担当

森林体験（森林学習）

６年生は、１０月１７日（木）に森林体験（森林学習）を行いました。檜原村の森林を守り、育てている田中林業さんにお世話になりました。実際に作業をしている様子を見せていただき、伐採の方法や重機の使い方等、細かく説明していただきました。子供たちからたくさんの質問もあり、「森林」、「林業」、「仕事」、「機械」など色々な視点で物事を考え、檜原村ならではの貴重な体験や学習をすることができました。

６年担任

イングリッシュキャラバン

１０月7日（月）に、イングリッシュキャラバンがありました。５名のネイティブスピーカーの先生が来校し、各学年１時間ずつ、ゲームをしたり対話をしたりしながら外国語で交流しました。身振り手振りを交えて、知っている英単語を使いながらコミュニケーションをとる姿がありました。活動に慣れてくると、積極的に英単語を発する様子が見られました。「あっという間だった。」と話す子もいて、どの学年も楽しく学習を終えられたようです。６時間目終了後は、ネイティブスピーカーの先生方が下校のお見送りをしてくれました。今回学習したことを、外国語活動や外国語の学習でも活かしていきます。

英語担当

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

９月２６日（木）に「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」で、全学年を対象に「ドローン体験」を行いました。今回は、「プログラミングで飛行指示を出す体験」と「ドローンを操作し、障害物を避ける体験」を行いました。どの学年も、なかなか普段触れることができない「ドローン」を操作することで、「ドローン」の凄さや魅力に気付いていました。また、プログラミングでは、どのように指示すれば、効率よく素早く動くのかなど、子供たちはチームごとに試行錯誤した様子も見られました。

総合コーディネーター

阪本小学校交流

１０月１５日㈫に中央区立阪本小学校との交流がありました。学校案内では、村の特産品を扱う給食や木質化された教室等、自分たちが紹介したい檜原小の説明をしました。檜原村の紹介では檜の木や村の伝統芸能等を紹介しました。最後は一緒に払沢の滝見学をし、「友達できた。」といった声も振り返りの時に聞こえてきました。

１０月２４日㈭には、檜原小学校の児童が阪本小学校を訪問しました。地域の紹介や学校案内をしてもらいました。交流の最後は増え鬼をしました。30人以上の同級生と一緒に遊ぶ経験がない４年生にとって貴重な体験となりました。最後は姿が見えなくなるまで手を振って見送ってくれました。

４年担任